

捕獲等事業評価シート

様式

－ シカ －

(三重県 獣害対策課)

評価シート（ニホンジカ・イノシシ・クマ）

1. 事業評価と見直しの基本的な考え方

本評価シートでは、以下の STEP 1～3 のとおり、捕獲等事業が計画通りに行われたか、その結果期待した成果が得られたか、といったことを確認します。

STEP 1 予定通りの作業ができたか、効率的な捕獲ができたか評価する。

STEP 2 捕獲によって出沒（密度）や被害が減少したかを検証する。

STEP 3 評価の結果を踏まえて、次年度事業の捕獲場所・時期・手法・従事者等の見直しを行う。

2. 予定通りの作業ができたか、効率的な捕獲ができたか評価する。（STEP 1）

どのように事業が実施されたか、それは計画通りだったのか、をしっかりと評価することで、STEP 2 の成果の検証と組み合わせて事業の改善点を検討することができます。事業中に記録されたデータに基づき、以下の観点で評価を行います。

- ✓ 計画通りに捕獲等事業を進めることができたか
- ✓ 目標として掲げた捕獲数を達成できたか
- ✓ 目標として掲げた捕獲努力量を達成できたか
- ✓ 効率的な捕獲であったか

3. 捕獲によって出沒（密度）や被害が減少したかを検証する。（STEP 2）

STEP 1 によって事業自体の評価をした次は、その結果期待した成果が得られたのか、について確認します。

（1）出沒（密度）の検証のポイントは以下のとおりです。

- ✓ 捕獲作業の前後で捕獲実施地点の対象種の出沒が減少したか（シカの分布の季節移動も考慮して検証すること）

事業実施地点の出沒状況（密度）の把握には、複数の指標を用いる方法が効果的です。例えば、捕獲効率（CPUE（単位努力量あたりの捕獲数）、と出沒（目撃）件数（SPUE（単位努力量あたりの目撃数））は基礎的な指標となり、さらに痕跡、カメラの撮影頻度等の活用も有効です。

捕獲効率だけでは、その数値が下がった時に捕獲の効率性自体が低かったのか、対象種の出沒頻度が低下したのかを判断することが難しい場合もあります。一方、捕獲効率などの指標に加えて、痕跡や撮影頻度を記録することで「いないから捕れない」「いても捕れていない」など、課題点が見えてきます。

センサーカメラを用いる場合、カメラの設置箇所の緯度経度、カメラの機種、設置状況（地上からの高さ、地上面に対してのカメラの角度（水平が多いと思いますが、場合によっては高い位置から見下ろすように設置する））、カメラの設定を記録してください。カメラの設定についての決まりはありませんが、一つの基準として、静止画、一度検知・撮影した後に再度検知するまでの間隔（ディレイ、インターバルなどと表記されることが多い）を10分とする設定（より短い方が多くのデータを得られるが、個体がカメラの前に滞在し続けて撮影枚数が過剰に増えてしまうことを抑制するための設定）が考えられます。そして、撮影された野生動物の枚数/カメラが稼働していた日数により、撮影頻度（枚/日）を計算します。

痕跡は捕獲作業時にその多寡（多・中・少）を記録することで負担にならず収集できるので、捕獲記録表に加えることが有効です。また、センサーカメラの撮影頻度と組み合わせることでより客観的な情報を収集できます。痕跡の例を以下に示します。

（痕跡の例）

- ・ 獣種共通…足跡、糞
- ・ シカ…植物や樹木の枝葉等の食べ痕、角で傷ついた樹皮、ディアライン、落ちた角 等
- ・ イノシシ…ヌタ場、地面の採食痕（掘り返し）、ササ・落ち葉・低木の枝等で作った寝跡、擦り跡（泥や体毛の付着等）、樹木への牙とぎ跡 等
- ・ クマ…樹皮への爪痕（木に爪を立てて上り下りするときに見える跡）、樹皮はぎ、クマ棚 等

(2) 被害の検証のポイントは以下のとおりです。

- ✓ 事業実施前後で被害が減少したか（複数年の評価が必要）
- ✓ 対象地域の捕獲数は何頭であったか、他に行われた施策は何か

被害の減少については、単年度で効果の発現は難しいため、単年度評価を複数年積み重ねて効果を検証します。指定管理鳥獣捕獲等事業は単年度事業であるため、一定期間同じ場所で事業を継続し、複数年で効果を検証するとともに、事業地を変える必要がある場合においてのみ事業地を変更するといった事業運営方法が望ましいです。さらに、事業実施地で複数年に得られた被害の減少と捕獲数のデータとを合わせて分析することで、現状の捕獲圧が被害を減らすのに十分であるか、十分でないとしたら今後どの程度の捕獲、もしくは他の施策を強化する必要があるかを検証することができます。

各被害の指標については、以下のとおりの種類が考えられますが、各都道府県の評価委員会の有識者等の意見も踏まえ、現地に合った複数の指標を使用することが望ましいです。

(被害の指標の例)

- ・植生被害…植生（木本類、ササ、草本層等）の食害・剥皮の有無（特に、のり面脇に自然発生したスギや萌芽枝などが観察しやすい）や食痕率（調べた本数に対する食べ痕があった個体の割合）や食害率、地表層の状況（リター層（森林の地表に落ちた落葉や枝、果実、樹皮、倒木などが堆積した層）の被覆度、面状浸食の面積、リル侵食（降水によって地表が削られてできた細かい溝（リル）の地形）の有無、土壌硬度等）、生育している植物の種類（嗜好性～不嗜好性の別も把握）、ディアライン（シカの食害によって、樹木が一定の高さに枝葉がそろっている様子）の形成、定点での植生や林内の状況の写真の比較 等
- ・農業被害…アンケート調査や被害実態調査による定量的把握、事業実施前後に地域住民へ被害発生の時期・内容・程度をヒアリングし定性的に比較 等
- ・人身被害…対象集落の出没数・目撃件数、事業実施前後に地域住民へ出没の時期・内容・程度をヒアリングし定性的に比較 等

4. 評価の結果を踏まえて、次年度事業の捕獲位置・時期・手法・従事者等の見直しを行う。(STEP 3)

捕獲等事業の成果等から課題を明らかにし、評価委員会の有識者の意見も踏まえた上で、より適切な位置、時期、手法、従事者等を検討し、次年度の捕獲事業に反映します。不確実性のある捕獲等事業を効率的に推進する上で、事業の見直しは必要不可欠です。事業を設計する発注者と、受注・実施する従事者、モニタリングを実施する調査会社等が、試行錯誤を重ねながら同じテーブルで議論をし、より良い事業の形や体制、方法を確立していく必要があります。

STEP 1～3について、次ページ以降の様式を実施地域毎に記入します。実施地域が複数ある場合は、様式をコピーして作成してください。

STEP 1 予定通りの作業ができたか、効率的な捕獲ができたか評価する。

■ 事業概要

事業実施地域	③いなべ市、②津市、②伊賀市、②大台町
事業主体	三重県農林水産部獣害対策課
事業実施期間	令和6年10月3日～令和7年3月27日
捕獲手法	くくりわな、はこわな
事業メニュー	②捕獲等メニュー、③メニュー広域連携タイプ等)
事業費	78,595,000 円 (※)

(※) 捕獲コスト把握のため本事業地にかかる事業費のみ記載

■ 事業の評価

評価項目	当初予定	実績	評価
捕獲目標	合計 236 頭	くくりわな：98 頭 箱わな：123 頭	捕獲目標の達成率は94%であった。目標が達成できなかった理由として、捕獲期間中に積雪があり、捕獲を実施出来なかった
捕獲作業量	くくりわな：10,568 台日 箱わな：13,321 台日	くくりわな：8,306 台日 箱わな：6,709 台日	計画通以上の作業量を投じることができた
効率的な捕獲	くくりわな：0.013 頭/台日 箱わな：0.012 頭/台日 (※) 昨年事業の捕獲効率等を記載	くくりわな：0.012 頭/台日 箱わな：0.018 頭/台日	いなべ市の捕獲率は雪の影響で低下したものの、他の地域においては情報収集と糞塊密度調査等データを活用し設置位置等を絞り込んだため捕獲率は上がったと思われる
事業に要した人員数	1,194 人日	751 人日	効率的なわなの捕獲で人員数を削減し作業を実施した。従事者 1 人当たりの捕獲数は0.294 頭であった
安全管理体制	指定管理鳥獣捕獲等事業計画として提出	提出した計画に沿って作業を行った。人身事故やその他の事故は発生しなかった	安全に予定通りの計画で事業は遂行された
捕獲個体の処分方法	指定管理鳥獣捕獲等事業計画に記載したとおり、生態系に重大な影響を及ぼすおそれがないよう林内に埋設	提出した計画に沿って作業を行った	予定通りの計画で事業は遂行された
環境への影響への配慮	・ 錯誤捕獲防止用わなを一部使用	・ 錯誤捕獲防止用わなを一部使用	予定通りの計画で事業は遂行された
捕獲個体の属性	・ オス 153 頭、メス 148 頭 ・ 成獣 287 頭、幼獣 14 頭 (※) 昨年度事業等の結果を記載。	・ オス 101 頭、メス 120 頭 ・ 成獣 201 頭、幼獣 20 頭	メスの割合は54%、昨年度49%と、ほぼ同様であった

■ 添付図面（地点（緯度経度）地図/5 kmメッシュ地図/1 kmメッシュ地図）

- ・ 捕獲数とその位置を落とした図（必須）・・・別紙（実施地域別）

STEP 2 捕獲によって出沒（密度）や被害が減少したかを検証する。

■ 事業実施地域

竜ヶ岳南部（大安町石樽峠）付近

■ 出沒（密度）

評価項目	モニタリング項目・方法・情報
事業実施前もしくは事業開始時・前半	・糞塊密度調査（R5） メッシュ番号5 21.25 個/km ・生息個体数（R5） 3,588 頭
事業実施後もしくは事業終盤・後半	・糞塊密度調査（R6） メッシュ番号5 26.89 個/km ・生息個体数（R6） 4,060 頭
評価	シカの密度が増加傾向にある。また、この地域は12月以降積雪があり捕獲が困難である

■ 被害

評価項目	モニタリング項目・方法
事業実施前もしくは開始時・前半	
事業実施後もしくは事業終盤・後半	
評価	令和5年度に下層植生衰退度調査を行っているが、毎年度調査ではないため、評価は困難である。今後も継続してモニタリングを実施し、被害低減効果を検証する

■ 添付図面

添付図面によって事業効果をわかりやすく認識できることから、添付いただくことでより正確な評価と次年度の査定につながります。できる限りの添付をお願いいたします。

- ・ 出没（密度）の比較図

(図-1 糞塊密度)



R5

通し 番号	県メッシュ 番号	調査 ユニット	踏査距離 (km)	10粒以上糞塊数			10粒未満糞塊数			10粒以上の 合計糞塊数	糞塊密度 (個/km)
				新	中	旧	新	中	旧		
1	4	四・伊賀	5.39	2	4	5	5	7	11	2.04	
2	5	四・伊賀	5.50	32	73	12	8	70	48	117	21.25
3	12	四・伊賀	5.49	2		1	1	5	3	0.55	
4	21	四・伊賀	6.28	10	154	5	52	15	169	26.92	
5	34	四・伊賀	5.10	4	5	1	1	5	3	10	1.96
6	49	四・伊賀	5.25	4	46	30	8	31	80	15.25	

R6

通し 番号	県メッシュ 番号	調査 ユニット	踏査距離 (km)	10粒以上糞塊数			10粒未満糞塊数			10粒以上の 糞塊数合計	糞塊密度 (個/ km)
				新	中	旧	新	中	旧		
1	4	四・伊賀	5.39		3	3		1	19	6	1.11
2	5	四・伊賀	5.50	18	92	38	4	63	50	148	26.89
3	12	四・伊賀	5.49	4	4	4		4	3	12	2.19
4	21	四・伊賀	6.30	10	74	18		16	14	102	16.20
5	34	四・伊賀	5.10	1	5	3		3	2	9	1.76
6	49	四・伊賀	5.25		10	136		1	25	146	27.83

(図-2 生息個体数)

R5

ユニット	市町	個体数			
		中央値	90%信用区間		
四・伊賀	桑名市	532	346	-	876
	いなべ市	3,588	2,337	-	5,912
	木曽岬町	0	0	-	0
	東員町	3	2	-	4
	四日市市	328	214	-	540
	鈴鹿市	553	360	-	912
	亀山市	2,629	1,713	-	4,332
	菰野町	1,558	1,015	-	2,567
	朝日町	0	0	-	0
	川越町	0	0	-	0
	伊賀市	8,041	5,238	-	13,249
	名張市	1,399	912	-	2,306

R6

ユニット	市町	個体数(頭)	
		中央値	(90%信用区間)
四・伊賀	桑名市	846	(549 ~ 1,390)
	いなべ市	4,060	(2,638 ~ 6,672)
	木曽岬町	0	(0 ~ 0)
	東員町	22	(14 ~ 36)
	四日市市	288	(187 ~ 474)
	鈴鹿市	426	(277 ~ 700)
	亀山市	2,365	(1,537 ~ 3,887)
	菰野町	2,177	(1,415 ~ 3,578)
	朝日町	0	(0 ~ 0)
	川越町	0	(0 ~ 0)
	伊賀市	8,891	(5,777 ~ 14,612)
	名張市	1,814	(1,179 ~ 2,981)

STEP 3 評価の結果を踏まえて、次年度事業の捕獲位置・時期・手法・従事者等の見直しを行う。

■ 捕獲等事業に関する評価及び改善点（STEP 1・2の検証を踏まえて記載する。）

1. 捕獲に関する評価及び改善点※	
【目標設定】	評価：昨年度に比べると生息個体数は増加している。
	改善点：目標設定をできる限り高くする。
【実施期間】	評価：
	改善点：
【実施位置】	評価：
	改善点：
【捕獲手法】	評価：昨年度、積雪により捕獲効率が下がっている。
	改善点：捕獲わな等の設置基数を増加し、捕獲効率を改善する。
【捕獲コスト】	評価：
	改善点：
2. 体制整備に関する評価及び改善点	
【実施体制】	評価：
	改善点：
【個体処分】	評価：
	改善点：
【環境配慮】	評価：
	改善点：
【安全管理】	評価：
	改善点：
3. その他の事項に関する評価及び改善点	
4. 全体評価	

■ 特定鳥獣保護・管理計画の目標に対する、本事業の寄与状況について

	モニタリング項目・方法
特定鳥獣保護・管理計画の目標	・農業被害程度が「深刻」または「大きい」集落の割合を 20%以下にする ・森林下層植生の衰退度が 2 以上の地点を 30%以下にする ・森林被害を軽減する
寄与状況の評価	・捕獲頭数を増やすために、狩猟期間を延長 ・有害鳥獣捕獲を効率化するため、生息状況や捕獲状況、被害状況などを示した獣害マップを提供

STEP 2 捕獲によって出沒（密度）や被害が減少したかを検証する。

■ 事業実施地域

津市（公共性が高い幹線道路、鉄道周辺）付近

■ 出沒（密度）

評価項目	モニタリング項目・方法・情報
事業実施前もしくは事業開始時・前半	・糞塊密度調査（R5） メッシュ番号 1 1 7 26.57 個/km ・生息個体数（R5） 9,707 頭
事業実施後もしくは事業終盤・後半	・糞塊密度調査（R6） メッシュ番号 1 1 7 41.84 個/km ・生息個体数（R6） 11,679 頭
評価	シカの密度が増加傾向にある

■ 被害

評価項目	モニタリング項目・方法
事業実施前もしくは開始時・前半	・「野生鳥獣による被害対策情報連絡会議」において関係機関から情報提供を頂き、県内の公共性の高い幹線道路及び鉄道での衝突事故が多発している地域を把握 ・
事業実施後もしくは事業終盤・後半	・上記の翌年度会議で情報を頂き被害状況を把握
評価	衝突数の把握を行い管理する位置などに活用

■ 添付図面

添付図面によって事業効果をわかりやすく認識できることから、添付いただくことでより正確な評価と次年度の査定につながります。できる限りの添付をお願いいたします。

- ・ 出沒（密度）の比較図

(図-1 糞塊密度)



R5

通し 番号	県メッシュ 番号	調査 ユニット	踏査距離 (km)	10粒以上糞塊数			10粒未満糞塊数			10粒以上の 合計糞塊数	糞塊密度 (個/km)
				新	中	旧	新	中	旧		
9	71	津・松阪	5.34	6	21	278			21	305	57.12
10	80	津・松阪	5.56	5	8	67		6	44	80	14.38
11	85	四・伊賀	5.51	37	66	8	1	32	25	111	20.14
12	87	四・伊賀	6.77	1	15	72		1	55	88	12.99
13	88	四・伊賀	5.84	33	55	20	5	51	46	108	18.50
14	90	津・松阪	5.30	5	201	30		79	24	236	44.51
15	114	四・伊賀	5.40	25	23	81	2	2	14	129	23.91
16	116	津・松阪	5.58	14	89	85	1	73	85	188	33.67
17	117	津・松阪	6.02	53	36	71	8	10	32	160	26.57
18	124	四・伊賀	5.69	26	49	29	1	1	26	104	18.27
19	139	津・松阪	5.51	19	8	13		1	11	40	7.26
20	140	津・松阪	5.19	8	39	27	1	4	14	74	14.25
21	152	津・松阪	5.11	9	19	10	2	25	26	38	7.43
22	164	津・松阪	5.11	4	31	17	2	14	16	52	10.17
23	168	津・松阪	5.50		2	87			18	89	16.19
24	169	伊勢志摩	5.20	13	31	12		29	36	56	10.77
25	172	伊勢志摩	6.34	7	34	7	1	14	9	48	7.57
26	173	伊勢志摩	5.65	56	73	39	15	82	51	168	29.72
27	177	津・松阪	5.32		60	3		21	12	63	11.83
28	179	津・松阪	5.33		5	133		1	19	138	25.88
29	184	伊勢志摩	5.47	3	91	58	1	45	18	152	27.81
30	187	伊勢志摩	5.53	38	149	13	9	108	43	200	36.18
31	189	伊勢志摩	5.14	32	60	17	1	7	17	109	21.19
32	195	伊勢志摩	6.12	5	144	11		38	22	160	26.16
33	199	伊勢志摩	5.55	5	34	6	2	15	14	45	8.11
34	201	伊勢志摩	5.70	25	97	4	6	35	18	126	22.11
35	207	津・松阪	5.22	7	39	14	2	16	21	60	11.50
36	212	伊勢志摩	5.32	10	28	67		4	24	105	19.74
37	214	伊勢志摩	4.25	11	96	5		10	10	112	26.32
38	220	津・松阪	6.16	18	52	33		7	23	103	16.73

R6

通し 番号	県メッシュ 番号	調査 ユニット	踏査距離 (km)	10粒以上糞塊数			10粒未満糞塊数			10粒以上の 糞塊数合計	糞塊密度 (個/km)
				新	中	旧	新	中	旧		
9	71	津・松阪	5.34	11	225	2		44	1	238	44.57
10	80	津・松阪	5.56	13	11	39	2	7	35	63	11.33
11	85	四・伊賀	5.51	8	107			27	6	115	20.87
12	87	四・伊賀	6.77	33	67	3		46	8	103	15.20
13	88	四・伊賀	5.84	12	27	27		14	40	66	11.31
14	90	津・松阪	5.39	2	243	9		20	33	254	47.13
15	114	四・伊賀	5.40	41	58	29	4	32	33	128	23.72
16	116	津・松阪	5.58	7	131	8		43	25	146	26.15
17	117	津・松阪	6.02	2	12	238			38	252	41.84
18	124	四・伊賀	5.67	8	40	24		8	11	72	12.70
19	139	津・松阪	5.51	12	30	12		12	8	54	9.80
20	140	津・松阪	5.19	7	22	19		6	14	48	9.25
21	152	津・松阪	5.11	2	9	14		5	18	25	4.89
22	164	津・松阪	5.11	18	10	28	1	3	34	56	10.96
23	168	津・松阪	5.52	9	85		1	28	10	94	17.03
24	169	伊勢志摩	5.20	17	29	23	1	17	21	69	13.27
25	172	伊勢志摩	6.34	9	29	27	2	18	52	65	10.25
26	173	伊勢志摩	5.65	1	101	7		48	19	109	19.28
27	177	津・松阪	5.32	2	4	64			17	70	13.15
28	179	津・松阪	5.33	20	69			40	13	89	16.69
29	184	伊勢志摩	5.47	2	6	98			33	106	19.39
30	187	伊勢志摩	5.53	4	136	15		40	33	155	28.04
31	189	伊勢志摩	5.14	34	69	45		9	26	148	28.77
32	195	伊勢志摩	5.68	2	125	4		43	16	131	23.06
33	199	伊勢志摩	5.55	2	6	38		3	33	46	8.29
34	201	伊勢志摩	5.87	9	17	21	1	8	27	47	8.01
35	207	津・松阪	5.22	4	20	27		5	22	51	9.77
36	212	伊勢志摩	5.42	4	114	6		42	21	124	22.89
37	214	伊勢志摩	4.25	37	23	35	8	7	20	95	22.33
38	220	津・松阪	6.16		4	11		1	8	15	2.44

(図-2 生息個体数)

R5

ユニット	市町	個体数			
		中央値	90%信用区間		
四・伊賀	桑名市	532	346	-	876
	いなべ市	3,588	2,337	-	5,912
	木曽岬町	0	0	-	0
	東員町	3	2	-	4
	四日市市	328	214	-	540
	鈴鹿市	553	360	-	912
	亀山市	2,629	1,713	-	4,332
	菰野町	1,558	1,015	-	2,567
	朝日町	0	0	-	0
	川越町	0	0	-	0
	伊賀市	8,041	5,238	-	13,249
	名張市	1,399	912	-	2,306
津・松阪	津市	9,707	6,324	-	15,994
	松阪市	7,176	4,675	-	11,825
	多気町	1,082	705	-	1,783
	明和町	0	0	-	0
	大台町	1,827	1,190	-	3,010

R6

ユニット	市町	個体数(頭)			
		中央値	(90%信用区間)		
四・伊賀	桑名市	846	(549	~	1,390)
	いなべ市	4,060	(2,638	~	6,672)
	木曽岬町	0	(0	~	0)
	東員町	22	(14	~	36)
	四日市市	288	(187	~	474)
	鈴鹿市	426	(277	~	700)
	亀山市	2,365	(1,537	~	3,887)
	菰野町	2,177	(1,415	~	3,578)
	朝日町	0	(0	~	0)
	川越町	0	(0	~	0)
	伊賀市	8,891	(5,777	~	14,612)
	名張市	1,814	(1,179	~	2,981)
津・松阪	津市	11,679	(7,588	~	19,194)
	松阪市	6,811	(4,425	~	11,193)
	多気町	1,256	(816	~	2,065)
	明和町	0	(0	~	0)
	大台町	2,513	(1,633	~	4,129)

STEP 3 評価の結果を踏まえて、次年度事業の捕獲位置・時期・手法・従事者等の見直しを行う。

■ 捕獲等事業に関する評価及び改善点（STEP 1・2の検証を踏まえて記載する。）

1. 捕獲に関する評価及び改善点※	
【目標設定】	評価：
	改善点：
【実施期間】	評価：
	改善点：
【実施位置】	評価：公共性の高い幹線道路や鉄道での衝突事故を把握
	改善点：鉄道での衝突は減少傾向にあるため公共性の高い道路を中心に検討する
【捕獲手法】	評価：
	改善点：
【捕獲コスト】	評価：
	改善点：
2. 体制整備に関する評価及び改善点	
【実施体制】	評価：
	改善点：
【個体処分】	評価：
	改善点：
【環境配慮】	評価：
	改善点：
【安全管理】	評価：
	改善点：
3. その他の事項に関する評価及び改善点	
4. 全体評価	

■ 特定鳥獣保護・管理計画の目標に対する、本事業の寄与状況について

	モニタリング項目・方法
特定鳥獣保護・管理計画の目標	・農業被害程度が「深刻」または「大きい」集落の割合を 20%以下にする ・森林下層植生の衰退度が 2 以上の地点を 30%以下にする ・森林被害を軽減する
寄与状況の評価	・捕獲頭数を増やすために、狩猟期間を延長 ・有害鳥獣捕獲を効率化するため、生息状況や捕獲状況、被害状況などを示した獣害マップを提供

STEP 2 捕獲によって出沒（密度）や被害が減少したかを検証する。

■ 事業実施地域

伊賀市（公共性が高い幹線道路、鉄道周辺）付近

■ 出沒（密度）

評価項目	モニタリング項目・方法・情報
事業実施前もしくは事業開始時・前半	・糞塊密度調査（R5） メッシュ番号 6 7 18.73 個/km ・生息個体数（R5） 8,041 頭
事業実施後もしくは事業終盤・後半	・糞塊密度調査（R6） メッシュ番号 6 7 7.20 個/km ・生息個体数（R6） 8,891 頭
評価	シカの密度が増加傾向にある

■ 被害

評価項目	モニタリング項目・方法
事業実施前もしくは開始時・前半	・「野生鳥獣による被害対策情報連絡会議」において関係機関から情報提供を頂き、県内の公共性の高い幹線道路及び鉄道での衝突事故が多発している地域を把握 ・
事業実施後もしくは事業終盤・後半	・上記の翌年度会議で情報を頂き被害状況を把握
評価	衝突数の把握を行い管理する位置などに活用

■ 添付図面

添付図面によって事業効果をわかりやすく認識できることから、添付いただくことでより正確な評価と次年度の査定につながります。できる限りの添付をお願いいたします。

- ・ 出沒（密度）の比較図

(図-1 糞塊密度)



R5

通し 番号	県メッシュ 番号	調査 ユニット	踏査距離 (km)	10粒以上糞塊数			10粒未満糞塊数			糞塊密度 (個/km)
				新	中	旧	新	中	旧	
3	12	四・伊賀	5.49	2		1		1	5	0.55
4	21	四・伊賀	6.28	10	154	5		52	15	26.92
5	34	四・伊賀	5.10	4	5	1		5	3	1.96
6	49	四・伊賀	5.25	4	46	30		8	31	15.25
7	50	四・伊賀	6.26	11	72	27		10	28	17.57
8	67	四・伊賀	5.55	37	45	22	4	16	11	18.73
9	71	津・松阪	5.34	6	21	278		21	305	57.12
10	80	津・松阪	5.56	5	8	67		6	44	14.38
11	85	四・伊賀	5.51	37	66	8	1	32	25	20.14
12	87	四・伊賀	6.77	1	15	72		1	55	12.99
13	88	四・伊賀	5.84	33	55	20	5	51	46	18.50
14	90	津・松阪	5.30	5	201	30		79	24	44.51
15	114	四・伊賀	5.40	25	23	81	2	2	14	23.91
16	116	津・松阪	5.58	14	89	85	1	73	85	33.67
17	117	津・松阪	6.02	53	36	71	8	10	32	26.57
18	124	四・伊賀	5.69	26	49	29	1	1	26	18.27

R6

通し 番号	県メッシュ 番号	調査 ユニット	踏査距離 (km)	10粒以上糞塊数			10粒未満糞塊数			糞塊密度 (個/km)
				新	中	旧	新	中	旧	
3	12	四・伊賀	5.49	4	4	4		4	3	2.19
4	21	四・伊賀	6.30	10	74	18		16	14	16.20
5	34	四・伊賀	5.10	1	5	3		3	2	1.76
6	49	四・伊賀	5.25		10	136		1	25	146
7	50	四・伊賀	6.26	9	6	31	3	4	22	46
8	67	四・伊賀	5.55	10	19	11		10	10	40
9	71	津・松阪	5.34	11	225	2		44	1	238
10	80	津・松阪	5.56	13	11	39	2	7	35	63
11	85	四・伊賀	5.51	8	107			27	6	115
12	87	四・伊賀	6.77	33	67	3		46	8	103
13	88	四・伊賀	5.84	12	27	27		14	40	66
14	90	津・松阪	5.39	2	243	9		20	33	254
15	114	四・伊賀	5.40	41	58	29	4	32	33	128
16	116	津・松阪	5.58	7	131	8		43	25	146
17	117	津・松阪	6.02	2	12	238			38	252
18	124	四・伊賀	5.67	8	40	24		8	11	72

(図-2 生息個体数)

R5

ユニット	市町	個体数			
		中央値	90%信用区間		
四・伊賀	桑名市	532	346	-	876
	いなべ市	3,588	2,337	-	5,912
	木曽岬町	0	0	-	0
	東員町	3	2	-	4
	四日市市	328	214	-	540
	鈴鹿市	553	360	-	912
	亀山市	2,629	1,713	-	4,332
	菰野町	1,558	1,015	-	2,567
	朝日町	0	0	-	0
	川越町	0	0	-	0
	伊賀市	8,041	5,238	-	13,249
	名張市	1,399	912	-	2,306

R6

ユニット	市町	個体数(頭)	
		中央値	(90%信用区間)
四・伊賀	桑名市	846	(549 ~ 1,390)
	いなべ市	4,060	(2,638 ~ 6,672)
	木曽岬町	0	(0 ~ 0)
	東員町	22	(14 ~ 36)
	四日市市	288	(187 ~ 474)
	鈴鹿市	426	(277 ~ 700)
	亀山市	2,365	(1,537 ~ 3,887)
	菰野町	2,177	(1,415 ~ 3,578)
	朝日町	0	(0 ~ 0)
	川越町	0	(0 ~ 0)
	伊賀市	8,891	(5,777 ~ 14,612)
	名張市	1,814	(1,179 ~ 2,981)

STEP 3 評価の結果を踏まえて、次年度事業の捕獲位置・時期・手法・従事者等の見直しを行う。

■ 捕獲等事業に関する評価及び改善点 (STEP 1・2の検証を踏まえて記載する。)

1. 捕獲に関する評価及び改善点※	
【目標設定】	評価：
	改善点：
【実施期間】	評価：
	改善点：
【実施位置】	評価：公共性の高い幹線道路や鉄道での衝突事故を把握 糞塊密度としては減少しているが地域の生息個体数は増加している
	改善点：鉄道での衝突は減少傾向にある 現在の位置は糞塊密度は減少にあるため、位置を検討
【捕獲手法】	評価：
	改善点：
【捕獲コスト】	評価：
	改善点：
2. 体制整備に関する評価及び改善点	
【実施体制】	評価：
	改善点：
【個体処分】	評価：
	改善点：
【環境配慮】	評価：
	改善点：
【安全管理】	評価：
	改善点：
3. その他の事項に関する評価及び改善点	
4. 全体評価	

■ 特定鳥獣保護・管理計画の目標に対する、本事業の寄与状況について

	モニタリング項目・方法
特定鳥獣保護・管理計画の目標	・農業被害程度が「深刻」または「大きい」集落の割合を 20%以下にする ・森林下層植生の衰退度が 2 以上の地点を 30%以下にする ・森林被害を軽減する
寄与状況の評価	・捕獲頭数を増やすために、狩猟期間を延長 ・有害鳥獣捕獲を効率化するため、生息状況や捕獲状況、被害状況などを示した獣害マップを提供

STEP 2 捕獲によって出沒（密度）や被害が減少したかを検証する。

■ 事業実施地域

大台町（公共性が高い幹線道路、鉄道周辺）付近

■ 出沒（密度）

評価項目	モニタリング項目・方法・情報
事業実施前もしくは事業開始時・前半	・糞塊密度調査（R5） メッシュ番号 1 7 9 25.88 個/km ・生息個体数（R5） 1,827 頭
事業実施後もしくは事業終盤・後半	・糞塊密度調査（R6） メッシュ番号 1 7 9 16.69 個/km ・生息個体数（R6） 2,513 頭
評価	シカの密度が減少傾向にある

■ 被害

評価項目	モニタリング項目・方法
事業実施前もしくは開始時・前半	・「野生鳥獣による被害対策情報連絡会議」において関係機関から情報提供を頂き、県内の公共性の高い幹線道路及び鉄道での衝突事故が多発している地域を把握 ・
事業実施後もしくは事業終盤・後半	・上記の翌年度会議で情報を頂き被害状況を把握
評価	衝突数の把握を行い管理する位置などに活用

■ 添付図面

添付図面によって事業効果をわかりやすく認識できることから、添付いただくことでより正確な評価と次年度の査定につながります。できる限りの添付をお願いいたします。

- ・ 出沒（密度）の比較図

(図-1 糞塊密度)



R5

通し 番号	県メッシュ 番号	調査 ユニット	踏査距離 (km)	10粒以上糞塊数			10粒未満糞塊数			10粒以上の 合計糞塊数	糞塊密度 (個/km)
				新	中	旧	新	中	旧		
9	71	津・松阪	5.34	6	21	278			21	305	57.12
10	80	津・松阪	5.56	5	8	67		6	44	80	14.38
11	85	四・伊賀	5.51	37	66	8	1	32	25	111	20.14
12	87	四・伊賀	6.77	1	15	72		1	55	88	12.99
13	88	四・伊賀	5.84	33	55	20	5	51	46	108	18.50
14	90	津・松阪	5.30	5	201	30		79	24	236	44.51
15	114	四・伊賀	5.40	25	23	81	2	2	14	129	23.91
16	116	津・松阪	5.58	14	89	85	1	73	85	188	33.67
17	117	津・松阪	6.02	53	36	71	8	10	32	160	26.57
18	124	四・伊賀	5.69	26	49	29	1	1	26	104	18.27
19	139	津・松阪	5.51	19	8	13		1	11	40	7.26
20	140	津・松阪	5.19	8	39	27	1	4	14	74	14.25
21	152	津・松阪	5.11	9	19	10	2	25	26	38	7.43
22	164	津・松阪	5.11	4	31	17	2	14	16	52	10.17
23	168	津・松阪	5.50		2	87			18	89	16.19
24	169	伊勢志摩	5.20	13	31	12		29	36	56	10.77
25	172	伊勢志摩	6.34	7	34	7	1	14	9	48	7.57
26	173	伊勢志摩	5.65	56	73	39	15	82	51	168	29.72
27	177	津・松阪	5.32		60	3		21	12	63	11.83
28	179	津・松阪	5.33		5	133		1	19	138	25.88
29	184	伊勢志摩	5.47	3	91	58	1	45	18	152	27.81
30	187	伊勢志摩	5.53	38	149	13	9	108	43	200	36.18
31	189	伊勢志摩	5.14	32	60	17	1	7	17	109	21.19
32	195	伊勢志摩	6.12	5	144	11		38	22	160	26.16
33	199	伊勢志摩	5.55	5	34	6	2	15	14	45	8.11
34	201	伊勢志摩	5.70	25	97	4	6	35	18	126	22.11
35	207	津・松阪	5.22	7	39	14	2	16	21	60	11.50
36	212	伊勢志摩	5.32	10	28	67		4	24	105	19.74
37	214	伊勢志摩	4.25	11	96	5		10	10	112	26.32
38	220	津・松阪	6.16	18	52	33		7	23	103	16.73

R6

通し 番号	県メッシュ 番号	調査 ユニット	踏査距離 (km)	10粒以上糞塊数			10粒未満糞塊数			10粒以上の 糞塊数合計	糞塊密度 (個/km)
				新	中	旧	新	中	旧		
9	71	津・松阪	5.34	11	225	2		44	1	238	44.57
10	80	津・松阪	5.56	13	11	39	2	7	35	63	11.33
11	85	四・伊賀	5.51	8	107			27	6	115	20.87
12	87	四・伊賀	6.77	33	67	3		46	8	103	15.20
13	88	四・伊賀	5.84	12	27	27		14	40	66	11.31
14	90	津・松阪	5.39	2	243	9		20	33	254	47.13
15	114	四・伊賀	5.40	41	58	29	4	32	33	128	23.72
16	116	津・松阪	5.58	7	131	8		43	25	146	26.15
17	117	津・松阪	6.02	2	12	238			38	252	41.84
18	124	四・伊賀	5.67	8	40	24		8	11	72	12.70
19	139	津・松阪	5.51	12	30	12		12	8	54	9.80
20	140	津・松阪	5.19	7	22	19		6	14	48	9.25
21	152	津・松阪	5.11	2	9	14		5	18	25	4.89
22	164	津・松阪	5.11	18	10	28	1	3	34	56	10.96
23	168	津・松阪	5.52	9	85		1	28	10	94	17.03
24	169	伊勢志摩	5.20	17	29	23	1	17	21	69	13.27
25	172	伊勢志摩	6.34	9	29	27	2	18	52	65	10.25
26	173	伊勢志摩	5.65	1	101	7		48	19	109	19.28
27	177	津・松阪	5.32	2	4	64			17	70	13.15
28	179	津・松阪	5.33	20	69			40	13	89	16.69
29	184	伊勢志摩	5.47	2	6	98			33	106	19.39
30	187	伊勢志摩	5.53	4	136	15		40	33	155	28.04
31	189	伊勢志摩	5.14	34	69	45		9	26	148	28.77
32	195	伊勢志摩	5.68	2	125	4		43	16	131	23.06
33	199	伊勢志摩	5.55	2	6	38		3	33	46	8.29
34	201	伊勢志摩	5.87	9	17	21	1	8	27	47	8.01
35	207	津・松阪	5.22	4	20	27		5	22	51	9.77
36	212	伊勢志摩	5.42	4	114	6		42	21	124	22.89
37	214	伊勢志摩	4.25	37	23	35	8	7	20	95	22.33
38	220	津・松阪	6.16		4	11		1	8	15	2.44

(図-2 生息個体数)

R5

ユニット	市町	個体数			
		中央値	90%信用区間		
四・伊賀	桑名市	532	346	-	876
	いなべ市	3,588	2,337	-	5,912
	木曽岬町	0	0	-	0
	東員町	3	2	-	4
	四日市市	328	214	-	540
	鈴鹿市	553	360	-	912
	亀山市	2,629	1,713	-	4,332
	菰野町	1,558	1,015	-	2,567
	朝日町	0	0	-	0
	川越町	0	0	-	0
	伊賀市	8,041	5,238	-	13,249
	名張市	1,399	912	-	2,306
津・松阪	津市	9,707	6,324	-	15,994
	松阪市	7,176	4,675	-	11,825
	多気町	1,082	705	-	1,783
	明和町	0	0	-	0
	大台町	1,827	1,190	-	3,010

R6

ユニット	市町	個体数(頭)			
		中央値	(90%信用区間)		
四・伊賀	桑名市	846	(549	~	1,390)
	いなべ市	4,060	(2,638	~	6,672)
	木曽岬町	0	(0	~	0)
	東員町	22	(14	~	36)
	四日市市	288	(187	~	474)
	鈴鹿市	426	(277	~	700)
	亀山市	2,365	(1,537	~	3,887)
	菰野町	2,177	(1,415	~	3,578)
	朝日町	0	(0	~	0)
	川越町	0	(0	~	0)
	伊賀市	8,891	(5,777	~	14,612)
	名張市	1,814	(1,179	~	2,981)
津・松阪	津市	11,679	(7,588	~	19,194)
	松阪市	6,811	(4,425	~	11,193)
	多気町	1,256	(816	~	2,065)
	明和町	0	(0	~	0)
	大台町	2,513	(1,633	~	4,129)

STEP 3 評価の結果を踏まえて、次年度事業の捕獲位置・時期・手法・従事者等の見直しを行う。

■ 捕獲等事業に関する評価及び改善点 (STEP 1・2の検証を踏まえて記載する。)

1. 捕獲に関する評価及び改善点※	
【目標設定】	評価：
	改善点：
【実施期間】	評価：
	改善点：
【実施位置】	評価：公共性の高い幹線道路や鉄道での衝突事故を把握 糞塊密度としては減少しているが地域の生息個体数は増加している
	改善点：鉄道での衝突は減少傾向にある 現在の位置は糞塊密度は減少にあるため、位置を検討
【捕獲手法】	評価：
	改善点：
【捕獲コスト】	評価：
	改善点：
2. 体制整備に関する評価及び改善点	
【実施体制】	評価：
	改善点：
【個体処分】	評価：
	改善点：
【環境配慮】	評価：
	改善点：
【安全管理】	評価：
	改善点：
3. その他の事項に関する評価及び改善点	
4. 全体評価	

■ 特定鳥獣保護・管理計画の目標に対する、本事業の寄与状況について

	モニタリング項目・方法
特定鳥獣保護・管理計画の目標	・農業被害程度が「深刻」または「大きい」集落の割合を 20%以下にする ・森林下層植生の衰退度が 2 以上の地点を 30%以下にする ・森林被害を軽減する
寄与状況の評価	・捕獲頭数を増やすために、狩猟期間を延長 ・有害鳥獣捕獲を効率化するため、生息状況や捕獲状況、被害状況など示した獣害マップを提供